

2013年度第2四半期（4－9月）決算の概要

1. 経営成績

- (1) 連結売上高は、高吸水性樹脂の販売が好調であったことなどにより、前年同期比13.5%増の802億円となりました。
- (2) 利益面では、増収効果に加え円安などにより、連結経常利益では前年同期比46.2%増の51億円となりました。
なお、単体の経常利益、四半期純利益が前年同期比減益となりましたが、これは関係会社からの受取配当金が減少したことによるものです。
- (3) 中間配当は、前期末配当と同じ1株当たり7円50銭とさせていただきます。

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	2012年度 第2四半期累計	2013年度 第2四半期累計	伸び率(%)	2012年度 第2四半期累計	2013年度 第2四半期累計	伸び率(%)
売 上 高	707	802	13.5	475	493	3.6
営 業 利 益	30	41	37.5	15	17	12.2
経 常 利 益	35	51	46.2	30	28	△5.3
四 半 期 純 利 益	19	29	53.5	22	21	△1.7

2. セグメント別連結売上高

(単位：億円)

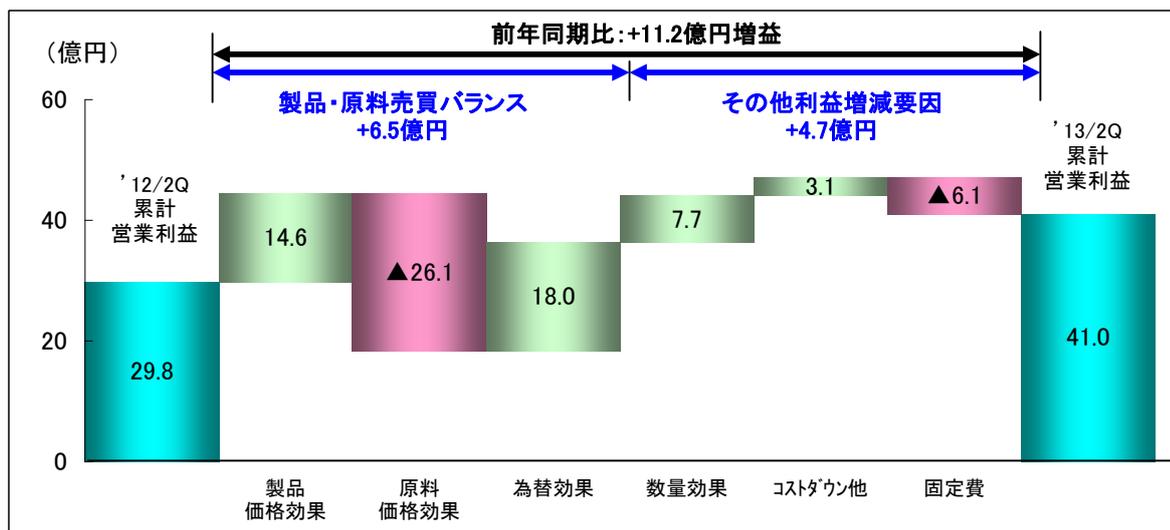
	2012年度 第2四半期累計		2013年度 第2四半期累計		前年同期比	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	266	37.6	333	41.5	67	25.2
石油・輸送機産業関連	169	23.9	181	22.6	12	7.1
プラスチック・繊維産業関連	88	12.4	96	12.0	8	10.1
情報・電気電子産業関連	101	14.3	104	12.9	3	2.7
環境・住設産業関連他	83	11.8	88	11.0	5	5.9
合 計	707	100.0	802	100.0	95	13.5

3. セグメント別連結営業利益

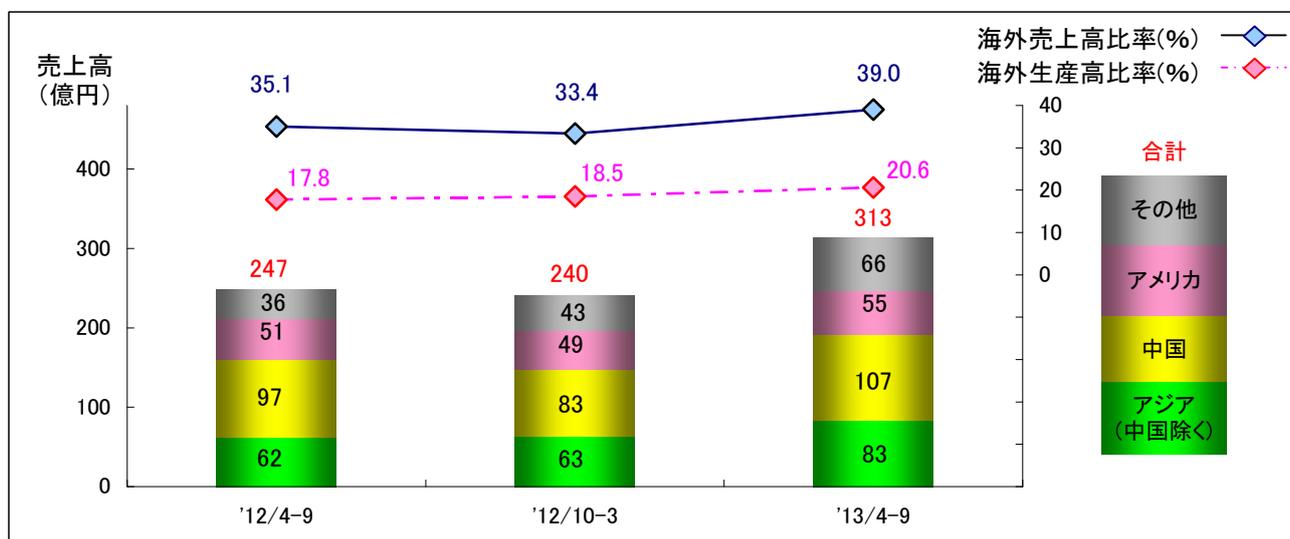
(単位：億円)

	2012年度 第2四半期累計	2013年度 第2四半期累計	前年同期比	
			増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	11.7	19.7	8.0	67.8
石油・輸送機産業関連	5.7	7.4	1.7	28.5
プラスチック・繊維産業関連	10.1	11.3	1.2	11.3
情報・電気電子産業関連	2.7	3.3	0.6	20.2
環境・住設産業関連他	△0.5	△0.7	△0.2	—
合 計	29.8	41.0	11.2	37.5

4. 連結営業利益の増減分析（前年同期比）



5. 連結海外売上高の推移



6. 配当の状況

	1株当たり配当金			配当性向 (連結) %
	中間	期末	年間	
2011年度	7.50	7.50	15.00	44.7
2012年度	7.50	7.50	15.00	39.6
2013年度 (予想)	7.50	7.50	15.00	33.8

7. 2013年度業績予想

高吸水性樹脂の販売が引き続き好調に推移すると見込まれることなどもあり、売上高は前回(7/31)発表を上回る予想であり、売上高を修正いたしました。なお、利益面は、ナフサ価格や為替の動向等、現時点では不透明な要素もあることから、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回発表予想を変更しておりません。

(単位：億円)

	連結			単体		
	2013年度	前期比 差額	前期比 伸び率(%)	2013年度	前期比 差額	前期比 伸び率(%)
売上高	1,610	183	12.9	990	43	4.5
営業利益	74	12	19.6	30	1	5.0
経常利益	81	8	11.5	50	△4	△7.7
当期純利益	49	7	17.2	36	△4	△11.0

8. トピックス

(1) サンダイヤポリマー株式会社の商号変更

当社の連結子会社であるサンダイヤポリマー株式会社（本社：東京都中央区、社長：武田栄明）は、当社と三菱化学株式会社が出資する合弁会社でありましたが、豊田通商株式会社が平成25年9月30日、三菱化学株式会社からサンダイヤポリマー株式会社の株式30%の譲受を完了したことを受け、当社と豊田通商株式会社との間で新たな合弁契約を締結いたしました。これを機に、SDPグローバル株式会社に商号変更しました。

(2) SDPグローバル株式会社が中国での高吸水性樹脂の生産能力を増強

当社の連結子会社であるSDPグローバル株式会社は、中国法人「三大雅精細化学品(南通)有限公司」（本社：中国江蘇省南通市、董事長：武田栄明）における高吸水性樹脂の生産能力を増強することを決定しました。今回の能力増強に伴う投資額は50億円強、増強する生産能力は年産8万トンで2015年7月に稼働予定です。三大雅精細化学品(南通)有限公司の生産能力は既存の生産設備と合わせて年産23万トン、これにより生産能力は日本、中国合わせて年産36万トン（世界第4位）となります。